

「72人を宣教に遣わす」

2015年07月24日

ルカによる福音書10章1節～12節。その後、主はほかに七十二人を任命し、御自分が行くつもりすべての町や村に二人ずつ先に遣わされた。そして、彼らに言われた。「収穫は多いが、働き手が少ない。だから、収穫のために働き手を送ってくださるように、収穫の主に願いなさい。行きなさい。わたしはあなたがたを遣わす。それは、狼の群れに小羊を送り込むようなものだ。財布も袋も履物も持って行くな。途中でだれにも挨拶をするな。どこかの家に入ったら、まず、『この家に平和があるように』と言いなさい。平和の子がそこにいるなら、あなたがたの願う平和はその人にとどまる。もし、いなければ、その平和はあなたがたに戻ってくる。その家に泊まって、そこで出される物を食べ、また飲みなさい。働く者が報酬を受けるのは当然だからである。家から家へと渡り歩くな。どこかの町に入り、迎え入れられたら、出される物を食べ、その町の病人をいやし、また、『神の国はあなたがたに近づいた』と言いなさい。しかし、町に入っても、迎え入れられなければ、広場に出てこう言いなさい。『足についたこの町の埃さえも払い落として、あなたがたに返す。しかし、神の国が近づいたことを知れ』と。言うておくが、かの日には、その町よりまだソドムの方が軽い罰で済む。」

主イエスは12弟子たちの他に、72人を任命し、2人1組にして「神の国」の宣教に遣わされた。この時、「収穫は多いが、働き手が少ない。だから、収穫のために働き手を送ってくださるように、収穫の主に願いなさい。行きなさい。わたしはあなたがたを遣わす」と言って送り出したと、ルカは宣教の拡大を記している。

この派遣においても、心構えと諸注意を語っている。①「狼の群れに小羊を送り込むようなものだ。」世の人は自分の利益を求めて、狼のように生きている。その世に向かって、神の恵みを分かち合い共に生きよという福音宣教は、小羊のように狼にかみ殺されるかもしれない。マタイ福音書10章16節cには「だから、蛇のように賢く、鳩のように素直になりなさい」と、知恵深く、真っ直ぐに伝道しなさいと諭している。②「財布も袋も履物も持って行くな。」素手で伝道しなさい、なぜなら、神が宣教に先立たれるからである。③「途中でだれにも挨拶をするな。」この言葉の意味は分からない。④「どこかの家に入ったら、まず、『この家に平和があるように』と言いなさい。平和の子がそこにいるなら、あなたがたの願う平和はその人にとどまる。もし、いなければ、その平和はあなたがたに戻ってくる。」神の平和は受け入れる人に届く。受け入れられなければ、平和はあなたの方に戻ってくる。宣教には無駄はない。⑤「その家に泊まって、そこで出される物を食べ、また飲みなさい。働く者が報酬を受けるのは当然だからである。家から家へと渡り歩くな。どこかの町に入り、迎え入れられたら、出される物を食べ、その町の病人をいやし、また、『神の国はあなたがたに近づいた』と言いなさい。」パウロはコリント(一)9章14節で「主は、福音を宣べ伝える人たちには福音によって生活の資を得るようにと、指示されました」と書いている。腰を据えて、癒しと神の恵みを宣教しなさい。⑥「しかし、町に入っても、迎え入れられなければ、広場に出てこう言いなさい。『足についたこの町の埃さえも払い落として、あなたがたに返す。しかし、神の国が近づいたことを知れ』と。言うておくが、かの日には、その町よりまだソドムの方が軽い罰で済む。」宣教を受け入れられない町に対しては、裁きを伝え、しかし「神の国は近づいた」と宣言せよと言っている。